

完了後の評価個表

整理番号	20
------	----

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	宮崎県
地域（地区）名	ひとつせがわ 一ツ瀬川	事業実施主体	県、市町村、森林組合、森林所有者等
関係市町村	さいと 西都市ほか5町1村	管理主体	県、市町村、森林組合、森林所有者等
事業実施期間	H23年度～H28年度（6年間）	完了後経過年数	5年

<p>事業の概要・目的</p>	<p>本地区は、宮崎県の中央部に位置する一ツ瀬川地域の1市5町1村からなっており、地形は市房山（1,721m）、石堂山（1,547m）等が九州山地を形成し、急峻な山岳が重畳して東方向に向かって標高を減じながら、丘陵地帯を経て東部の宮崎平野に続いている。</p> <p>計画の対象とする民有林面積は56,602haで、うち人工林面積が24,460ha（人工林率43%）となっている。また、人工林の樹種別構成は、スギが全体の75%を占め、齢級別面積は11齢級が最も多く、10齢級～13齢級以上が全体の59%を占めるなど、本格的な利用期を迎えている。そのため、森林資源の効率的な循環利用や多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるためには、高齢級間伐の実施や伐採跡地の植栽による適切な保育管理が必要となっている。</p> <p>本事業は、森林の有する水源涵養機能や山地保全機能などの公益的機能を発揮するために必要な造林や間伐などの森林整備を積極的に推進するとともに、これらを効率的に推進するための路網整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容 森林整備 5,097ha 人工造林、下刈り、除伐、間伐等 路網整備 1,907m 林道開設</p> <p>・総事業費 1,783,679千円（税抜き1,707,500千円） （平成22年度の評価時点 1,012,466千円）</p>
-----------------	--

<p>① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>令和4年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、労務単価の上昇や優先度の高い箇所から実行したことに伴う事業量の変動や費用便益分析で使用する単価の変化等によるものである。</p> <p>総便益（B）22,898,979千円（平成22年度の評価時点7,147,440千円※） 総費用（C）4,246,674千円（平成22年度の評価時点2,203,406千円※） 分析結果（B/C）5.39（平成22年度の評価時点3.24※）</p>
<p>② 事業効果の発現状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・更新、保育によって5,097haの森林が整備され、水源涵養や山地保全等の森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。また、列状間伐の実施や高性能林業機械の使用等により効率的な作業が行われ、木材が安定的に供給された。 ・林業専用道の開設により1,907mの路網が整備され、車両が通行可能となったことにより、森林整備事業地までの通勤時間の短縮や資材運搬等が容易になった。また、大型車両による木材運搬が可能になり、事業地から林道までの搬出距離が短縮され、木材生産の経費の縮減が図られた。 ・森林整備、路網整備事業の発注により雇用の場が提供され、地域の社会経済に貢献した。
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整備された森林は、森林経営計画等により継続して適切に管理されており、良好な管理状況にある。 ・整備された路網は、適切に維持・管理されており、森林施業の際には、草刈りや排水施設の通水を確保する等、維持管理状況は良好である。
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備の実施により良好な森林が形成され、水源涵養や山地保全、林産物の安定供給等といった多面的機能が発揮されている。
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>地域の産業別人口は、第1次産業22%、第2次産業21%、第3次産業57%となっており、林業の生産額は、第1次産業の4%を占めている。</p> <p>地域の製材工場は県全体の10%程度に当たる13の工場があり、出力階層別製材工場数の内訳は、県全体と同様に、中規模工場の割合が高い状況である。</p> <p>こうした状況の中、本事業の森林整備により、高性能林業機械を含む機械作業システムの導入が促進されており、また、路網の整備によって効率的・効果的な森林施業が図られている。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の有する公益的機能の維持増進を図るとともに、木材を安定的に供給するため、森林経営計画等に基づく適切な森林整備及びその実施に必要な路網を着実に整備する必要がある。 ・「伐って、使って、すぐ植える」資源循環型林業の確立のため、コンテナ苗による植栽や伐採と造林の連携による一貫作業や下刈り等の保育作業を省力化し、低コスト再造林に取り組んでいく必要がある。

	<p>地元の意見：</p> <p>（宮崎県）</p> <p>森林整備事業の実施により、水源涵養や山地保全等の公益的機能が発揮されている。今後も素材生産や木材加工業者等との意見交換を継続し、川上から川下まで一体となった再造林支援の仕組みづくりを行っていく。</p>
<p>評価結果</p>	<p>必要性： 間伐等の森林整備を通じて、森林の有する公益的機能の発揮が図られ、地域における水源地や、土砂の流出防止等として重要な役割を果たしており、事業の必要性は認められる。</p> <p>効率性： 森林整備では、列状間伐や高性能林業機械による低コストで効率的な作業システムの定着を図ってきている。</p> <p>また、路網整備では木材の搬出が困難な箇所を優先することや、丈夫で簡易な構造の林業専用道を採用すること等により、森林整備事業箇所へのアクセス向上が図られており、費用便益分析の結果からも効率性が認められる。</p> <p>有効性： 森林資源の現況や路網の整備状況を踏まえた計画的な事業の実施により、森林の有する多面的機能が総合的かつ高度に発揮されており、事業の有効性が認められる。</p>

※平成 22 年度の評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：宮崎県

地域(地区)名：ひと
—ツ
瀬川

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	4,599,439	
	流域貯水便益	1,869,468	
	水質浄化便益	6,855,740	
山地保全便益	土砂流出防止便益	3,075,360	
環境保全便益	炭素固定便益	3,867,487	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	2,498,207	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	133,278	
総 便 益 (B)		22,898,979	
総 費 用 (C)		4,246,674	
費用便益比	$B \div C = \frac{22,898,979}{4,246,674} = 5.39$		

森林環境保全整備事業 一ツ瀬川地域 (宮崎県) 概要図

